

# Being Our Self

ビーイングアワースelf

vol.15  
JSDWA



P.2からP.4

P.6

News

ホームヘルパー犬の本が出版されました

特集

地味だけど大切な普及啓蒙活動

## ごあいさつ

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素はひとかたならぬ御愛顧を賜り、厚く感謝申し上げます。今年第一号介助犬「ロード号」(十三歳九ヶ月)「第二号」ステン号(十三歳九ヶ月)「ロッキー号」(十歳九ヶ月)広報犬も四頭が天国に旅立ちました。心が痛くて何日も涙が止まらない日々でした。介助犬たちが身体障害者のために働き天命を全うして旅たつのです。介助犬ロードの記録

平成二十五年五月に十五年日午前一時二十分 十四歳九ヶ月永眠十三歳後半になったロードは平成二十四年十一月はじめ、体調を壊し危篤状態でした。ユーザーに告げると、「体調がすぐれない為ロードに会うことができないので、いつでも覚悟はできているので、最後まで苦しまないで天国に旅立つことをいつも祈っています。」と言われお互いに電話口で覚悟の涙でした。その日から二十四時間体制で看病の末、奇蹟の回復をしました。寒い山中湖の冬も無事に過ごしました。高齢から来る心臓病で危篤状態でした。一時は回復しましたが年齢からくる諸症状もあり、毎日爆弾を抱えている状況でした。ユーザーがロードに耳元に「ローちゃん頑張つてね。もう一回どうしても元気なロードに会いたいからね。」と呼びかけたことがロードの「生きる気力」に繋がり七ヶ月も延命ができました。念願叶って二十五年五月八日に山中湖訓練センターでユーザーと無事に再会ができました。ユーザーにあえたロードは「何でここにいるの?」とビックリした表情!

五月二十四日、呼吸困難になり今日が命の峠かな〜と思わせる症状でした。食べたいものをあげようと決め、思いっきりお腹一杯に食べさせました。満足そうに『食べたな〜』と言う表情をしてその後、ベッドに横になり亡くなる三時間前に、急に起き上がりトイレに行くと言ったのでまたベッドに戻り、また、二時間前に急に立ち上がり今度はオシッコをしに行き、自力で水を飲んで私たちに見守られながら天国に旅立ちました。介助犬の素晴らしい姿勢を見せてくれました。ユーザーに迷惑をかけないで自分のことは全部自分で始末して旅たつたのです。心に深く残るロードでした。今後共ご指導ご支援の程宜しくお願いいたします。

厚生労働大臣指定法人

社会福祉法人 日本介助犬福祉協会

理事長 川崎 芳子